

経営理念		【教育目標】 人権を尊重し、郷土を愛し、自主的で社会性豊かな生徒を育成する ～ やり抜く力の育成 ～ 【研究主題】 主体的に考え、判断し、行動できる力の育成～生徒指導の4機能(自己存在感、共感的な人間関係、自己決定、安心・安全な風土)を生かして～ <めざす生徒像> ・自分の存在を大切にする生徒 ・支え合い認め合う生徒 ・気力に満ちた生徒 <めざす学校> ・生徒がいきいきと活動している学校 ・生きる力を育成する学校 ・地域に貢献できる学校 <めざす教職員像> ・教育に対する熱意と使命感を持つ教職員 ・子どもを信頼し、可能性を伸ばすことができる教職員 ・責任感や協調性を持ち、互いに高め合う教職員					
中期経営目標		短期経営目標(評価項目)	自己評価 達成状況		学校関係者評価(R6) 考察	評価	改善策等
知	①各学力調査において全国平均に引き上げる。 ②研究授業や公開授業において生徒指導の4機能を活かした授業の視点で評価しあえる。 ③授業でのICT活用の常時化(安全かつ効果的に生徒が自分の意志でタブレットを活用)と家庭学習との相互作用による授業展開 ④単元ごとの観点別評価規準について生徒が納得できるように示せている。	①授業改善に取り組み、各学力調査において県平均－3ポイント以内 ②バックワードデザインの単元構成を行い、各観点の評価基準を生徒と共有する	①3年全国学力調査(4月) 全国平均 国:－5ポイント以上 数:－5ポイント以上 ①1, 2年県学力調査(12月) 県平均(1年) (2年) 国:－1ポイント以内 +4ポイント以上 社:＋5ポイント以上 +5ポイント以上 数:＋5ポイント以上 +5ポイント以上 理:＋5ポイント以上 －5ポイント以下 英:＋5ポイント以上 +5ポイント以上 ②バックワードデザインの単元構成を行い、各観点の評価基準を生徒と共有する (1)単元の見通しをもって授業に参加することができた。 肯定 98.1％(強肯定68.2％) (2)自分の考え・意見などを理由や根拠を含めて伝えることができた。 肯定 94.7％以上(強肯定56.2％)		B	総合的に学力の向上が見られる状況にある。引き続き、生徒が主体的に学習に向かう授業づくりに取り組み、教科で求められている力を付けていてほしい。	B ・思考力・判断力・表現力を育むための資料の読み取りなど教科に特化した力を伸ばす言語活動の充実の工夫と定着のための課題設定に取り組む。 ・生徒指導の4機能を意識した指導上の工夫や教師の働きかけの具体をもって授業を行い、評価基準をもとに生徒の姿を通して授業を振り返り、授業改善に引き続き取り組む。 ・校内研修で一斉授業公開研究を位置付け、課題を共有し、課題解決に向けて各教科・チーム会において取り組む。
		③1人1台タブレット端末やデジタルドリル等のデジタル教材を効果的に活用した授業及び基礎学力の定着を図る【5教科年間2回以上の利用、技能教科1回以上の利用 100％】 ③各学年タブレット端末などを利用した学習を含めて、全体の学習時間1時間以上の割合を50％以上	③タブレット端末の活用では、校内研修を位置づけ、どの教科においても活用が進んだ。 ③帰り学習の時間の教科担任による指導、ミライシードの活用を行い、個々の生徒の状況を把握しながら、基礎学力の定着を図ることができた。 ③全体の学習時間1時間以上の割合 51.9％		B	活用については、どの教科でも見られるようになってきている。効果的なタブレットの使い方について実施・検証し、よりよい授業づくりを期待する。	B ・タブレット端末を活用した授業を行えている。その活用が生徒にとって効果的なものになっているかの検証・精査をする。 ・授業と家庭学習のシームレス化を図り、家庭学習で取り組んだことを生かせる授業づくりを行う。
		④学力向上実感の否定群を15％以下にする	④授業始めに付けたい力を明確にし、評価基準を生徒に示し、授業後の振り返りでメタ認知を行えるよう、ICTを活用し、学びの足跡の見える化に取り組んだ (1)各教科の課題は知識定着に役立った。 肯定92.6％ 否定7.4％ (2)授業で習ったことを活用し、意見交流や表現活動に主体的に取り組めましたか。 肯定87％ 否定13％		B	授業の中で、生徒が生き生きとした学習活動が見られるようになりたい。また、生徒が希望する進路実現ができるように、学力の定着に引き続き取り組んでもらいたい。	B ・生徒にとって学びに向かう課題設定を行い、習得と活用のバランスを取った授業実践をし、適用問題等で見取り。そして、教師の支援や手立てが適切であったかの分析を行い、授業改善に取り組む。 ・生徒の学習状況をフィードバックし、メタ認知をさせることで、生徒が「分かった」「できた」という実感が持たせ、学習への意欲の向上を行う。
		④学力向上実感の否定群を15％以下にする	④授業始めに付けたい力を明確にし、評価基準を生徒に示し、授業後の振り返りでメタ認知を行えるよう、ICTを活用し、学びの足跡の見える化に取り組んだ (1)各教科の課題は知識定着に役立った。 肯定92.6％ 否定7.4％ (2)授業で習ったことを活用し、意見交流や表現活動に主体的に取り組めましたか。 肯定87％ 否定13％		B	授業の中で、生徒が生き生きとした学習活動が見られるようになりたい。また、生徒が希望する進路実現ができるように、学力の定着に引き続き取り組んでもらいたい。	B ・生徒にとって学びに向かう課題設定を行い、習得と活用のバランスを取った授業実践をし、適用問題等で見取り。そして、教師の支援や手立てが適切であったかの分析を行い、授業改善に取り組む。 ・生徒の学習状況をフィードバックし、メタ認知をさせることで、生徒が「分かった」「できた」という実感が持たせ、学習への意欲の向上を行う。
徳	①暴力行為0 ②新規不登校を出さない ③「自分には良いところがある」否定群0％ ④「道徳の勉強は好き」否定群0％ ⑤「道徳の時間・・・良く考えている」否定的意見0％	①暴力行為0 いじめ継続の解消	①暴力行為1 いじめ認知 12月現在 8件 うち解消に向けて取組 6件 ・学校全体が落ち着いており、学年関係なく縦割り班や地域会、行事等を通じて支え合い認め合える雰囲気がある。		B	把握・対応がなされており、未然防止の取組や事後対応の両面での安心・安全な学校を築いてもらいたい。	B ・生徒同士が支え合い認め合えるように人権教育や道徳教育、学級づくりに力を入れていく。 ・様々な問題が起こったときに、生徒自身で解決していく力を育成する。
		② 新規不登校0	②不登校4 継続生徒3, 新規1(継続) ・校内支援会で状況把握や支援のあり方について協議をし、個々の状況に合わせた対応(別室登校等)を行っている。 ・担任が中心となって家庭や関係機関とも連携を取りながら、継続した支援を行っている。		B	個に応じた対応がなされている。校内支援会では、学校組織で関わっていることを理解してもらうとともに、組織的な連携を保護者とも行っていくことも必要である。	B ・誰もが安心して過ごせる学級づくりを継続して行う。 ・友達との関わりの機会を大切にしたり、別室登校をした際の時間割上に対応教員の配置をし、丁寧に関わっていく。 ・校内支援員会に位置づけ、SC を交えて支援方法等について協議するとともに、関係諸機関や家庭との連携を継続して行っていく。
		③全ての教育活動において自己有用感に基づく自尊感情を高める ・「自分には良いところがある」否定的意見10％以下	③否定的評価 R5:20.8％ → R6:17.9％ ・学級や縦割り班の中で生徒同士の認め合いや行事等の実施後のありがとうメッセージなどに取り組んできたことで、否定的評価の割合が減少傾向にあるが、目標値に届かなかった。		B	学校外からの評価をもらうことで、生徒が取り組んだことに達成感や充実感をさらに高めることにつながると思うので、この取組に期待しています。	B ・授業や学校行事等を通じて、生徒が主体的に取り組む姿を増やし、活躍の場や互いに支え合ったり認め合ったりする活動を進めていく。 ・地域に出ていく活動を通して、外部や地域の方からも評価していただく機会をつくり、生徒にフィードバックさせる。
		④⑤「考え議論する道徳」の授業が行われている道徳 ・「道徳の勉強は好き」否定的意見15％以下 ・「道徳の時間・・・よく考えている」否定的意見10％以下	④⑤道徳意識アンケート結果 ・「道徳の勉強は好き」否定的意見 R5:31.3％ → R6:16.1％ ・「道徳の時間・・・良く考えている」否定的意見 R5:21.6％ → R6:7.1％ ・年度当初に校内一斉研修で、道徳の指導案づくりや公開授業を行い、生徒指導の視点を取り入れた授業について研修したり、より深く議論し考える授業づくりに取り組んできた。学年の教員が輪番制で授業を行い、様々な教員が関わることで、道徳の授業が工夫されている。		B	道徳の授業を全ての教員が行っていることはすごいことです。全校で取り組んでいる大事な部分なので、より議論し考える道徳の授業づくりに取り組んでもらいたい。	B ・今後も道徳の授業づくりの研修を行い、発問の仕方や指導方法について指導書にとらわれない指導法について学習するようにする。また教材についても生徒の身近な話題を取り上げたりしながら、道徳の授業を楽しみ、好きと思える生徒を増やしていく。

中期経営目標		短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価(R6)		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
体	①朝食摂取率の向上 毎日食べている又は食べる日が多い 90%以上 ②総合評価で総合判定D層の割合減少 男子15%以下 女子15%以下 ③体育の授業は楽しくない 男女とも0%	①規則正しい睡眠や食事など基本的な生活習慣を向上させる。(朝食摂取率、毎日食べている。食べる日が多い85%)	①生活調査のアンケート結果 朝食を「毎日食べている、食べる日が多い」 R5:83.6% → R6:92.4% ・食べている生徒がほとんどであるが、一部の生徒については食べないことが習慣になっており、懸念される。	A	次年度の課題は「睡眠」なので、生活習慣の改善に取り組み、よりよい成長へとつなげてほしい。	A	・生活調査を継続的に実施し、動向を見とるとともに、朝食の大切さや体調との関連性について啓発していく。また、欠食生徒については固定化されている傾向があるため、食べない(食べれない)状況や原因を確認し、本人と面談したり家庭に向けて面談等の機会に働きかけていく。
		②総合判定D層以下をC層にあげる。(総合評価D層以下 男子22%以下、女子17%以下)	②体力・運動能力等調査 総合評価D層以下 男子:16% 女子:10% ・授業のオリエンテーションで、体力テストに向けた話や昨年度の結果をもとに自己目標を設定するなどして動機づけをしたり、授業の導入で身体づくり運動を入れたりしたことによる成果だと考えられる。今後は、課題のあった項目に焦点化して取り組み、年度末に再テストを実施する。 【課題】 共通:握力、長座前屈 女子:立ち幅跳び、ハンドボール投げ	A	目標数値を達成できており評価できる。D層以下には運動の苦手な生徒もいるので、運動に親しむという生涯スポーツとしての視点も考え、運動することが楽しいと思う徒を増やしてほしい。	A	・体力テストの結果のうち、全国の結果と比べて下回っている種目については、授業の中でその種目に通ずるウォーミングアップを盛り込み、改善につなげる。 ・体育の授業以外に体を動かす遊び等を全くしない生徒が11%いるため、全校レクなどを実施したり、昼休みの体育館解放で様々な運動に親しむ機会を継続する。
		③授業力向上を図り、運動好きな生徒を育てる。(体育の授業は楽しくない 男子5%以下、女子5%以下)	③生徒による授業評価 男子10% 女子7% ・授業改善や振り返りの工夫をするなどして取り組んだが、達成に至らなかった。各クラスで「楽しくない。」と回答した生徒が1～2名で目標値の5%を超えてしまい、達成できていないとなる。	C	1・2名で目標数値を達成できなくなる設定なので達成するのは難しい。大部分の生徒が体育の授業が楽しいと答えた肯定的に捉えていることから、評定Cではなく評定Bが適切である。	B	・目標設定の数値目標を見直す。 ・頑張りや努力している部分に焦点をあてた声掛けや肯定的評価を行うなど、運動への苦手さを軽減させる取組を行っていく。
		④生徒自身が生活習慣の見直しにつなげることができる (メディア時間調査後、時間削減)	④生活調査アンケート結果 ゲームをする時間2時間以上 14.1% LINE等する時間2時間以上 27.4% 就寝する時間11時以降 36.8% ・11時30分より遅く寝る生徒は、勉強している45%、ゲームをする45%となっており、朝起きた時に「すっきりおきられていない・起きられない」24.5%となっており、必要な睡眠時間が十分にとれていない。	B	睡眠不足から日々の生活に大きな影響を与えることから、睡眠の重要性や啓発をして、生活習慣の改善につなげてほしい。	B	・睡眠とメディアとの関連性の影響が大きく、ふれあいカードの取組により、家庭でメディア使用のルール作りの取組を行う。 ・生徒対象に健やかな成長に欠かせない「睡眠」の重要性について、年度初めに専門講師を招いた学習を生徒及びPTA研修に位置付けて実施する。
横断	①部会を中心としたボトムアップによる学校運営に参加する体制が整えられている。 ②企画委員会を時間割に位置づけ、学校の課題や改善すべき状況を捉え、職員会議等で適切な提案・運営がされている。 ③地域・保護者との防災学習や避難訓練が実施でき、危機意識が高められている。保護者と生徒の間で休日や夜間の避難後に合流する場所を決めている。 ④県指定事業「社会に開かれた生徒指導実践研究事業」での取組・実践により、継続的な取組となり、生徒の地域貢献への意識改革が進んでいる。 ⑤こども園小中連携で総合の時間、特別活動、人権教育で15年間の系統性のある連携した指導が推進されている。 ⑥メンタルヘルスを意識した分掌業務負担軽減とワークバランスとの健康保持がされている。	①②企画委員会を実施し、3部会や学年会と連携をし、学校の課題解決に向けてチーム学校としての組織を強化する。	①②企画委員会が定期的に実施され、協議を行うことができた。3部会の連携をとるため、研究推進会が設定できなかったことで、各部会での動きを共有しつつ、様々な視点からの意見の取入れが不十分だった。	B	学校組織運営の重要な要として、様々な教育課題解決に向けて取り組んでほしい。	B	・校内の研究主題を組織的に進めるための研究推進体制が必要であるが、研究推進会を実施するにあつては、新たに会議設定すると、教員の業務負担が懸念されるため、他の会議との調整や精査する。
		③様々な状況の中でも、災害から自らの命を守ることができる。	③避難場所への園小中の合同避難訓練 年3回実施(雨天のため1回は各校で実施) 火災訓練及びJアラートによる訓練の実施 ・これまでの取組では、避難をすることに重点を置いていたが、一定の訓練ができていることもあり、今年度は避難後の命をつなぐための取組を生徒中心で行い、地域に向けての発信に取り組んだ。	B	合同訓練の定期的な実施と、様々な状況を想定した訓練の実施をお願いしたい。また、地域も巻き込み、防災意識の向上にも一役を担ってほしい。	B	・生徒も地域住民も津波避難後の命をつなぐため、避難所生活を想定した情報発信や防災学習で学んだことを行政機関や地域住民を巻き込み、防災意識を高める取組を継続していく。 ・2次避難所は運動広場を想定しているが、3次避難所、4次避難所も想定し、保護者への引き渡しについて、明確にしておく。
		④特別活動の全体計画や構想を見なおし、取り組みを通して地域や実社会での自主的な実践に繋げる	④指定事業アンケート結果 まわりの人の役に立っている(自己有用感)肯定的評価 R5:71.7% → R6:83.9% 住んでいる地域のことに関心をもつ(地域)肯定的評価 R5:81.5% → R6:87.5% ・小学校で学級会の力を付けてきたことが、中学校でも発揮され、教員も共通した話題で協議ができ、学級会での話し合いの質を高めている。 ・指定事業の関連から特別活動の時間が多くなり、次年度同じ時間数での持続可能な取組が難しい。	A	2年間の指定事業の取組から、発表会を見せてもらい、生徒の姿から大きな成長を感じました。指定事業が終わりますが、引き続き小中が連携して特別活動の充実を図ってほしい。	A	・特別活動を重点の一つとして、特別活動や総合的な学習の時間等との関連性をもたせ、持続可能な計画を作成していく必要がある。 ・教員主導から、子どもに任せる部分を増やし、子どもの主体性のある活動とし、学級→学校→地域へ系統性をもって広げられるように、社会参画の活動に取り組んでいく。
		⑤小中での教科以外の学習(総合の時間、人権教育)の系統性のあるカリキュラムの作成	⑤園小中合同研修会年4回実施 (年3回の合同職員会と防災研修会1回) ・夜須校区で目指す子ども像の育成を意識しながら各部会で話し合いをし、異校種での交流を見直し取組を行うことができた。小学校高学年と中学校の連結部分に焦点をおいての協議や研究ができた。 ・今年度の取組をもとに、小中の系統性のあるカリキュラムの作成には至らなかった。	B	小学校、中学校の取組がバラバラな取組にならないように、9年間を通じてどのような子どもに育ってほしいのか共通認識を持ちながら、系統性のある教育を行ってほしい。	B	・合同避難訓練は、様々な想定をした訓練を実施し、児童生徒が臨機応変な避難ができるように取り組む。 ・小中それぞれの取組が系統性をもった計画や取組になっていくよう、年間指導計画を見直し、再構築する。
		⑥繁忙期以外では、時間外月45時間以内及びワークバランスとの健康保持	⑥時間外45時間超 1学期25% → 2学期12% ・年度当初は45時間を超える月もあったが、時間外業務削減の意識とワークバランスを考え、時間外業務の削減となった。全体の年間平均値として時間外45時間を超える状況ではない。	B	学校での働き方改革の取組を進めていただくとともに、教員が休みになると、県下的に代替教員の配置がない状況が見受けられるので、健康には十分気を付けて業務にあたってもらいたい。	B	・部活動等により時間外勤務者が固定化されており、現状仕方ない部分もあるが、ワークバランスを促し、メンタルヘルスケア及び健康維持に努める。

評価基準 A:十分満足 (～80%) B:おおむね満足 (80%～60%)

C:もう少し努力すべ(60%～40%) D:大いに努力が必要 (40%～)